

株式会社朝日ラバー

環境・社会活動報告

2016年度

環境への取り組み



▶ トップコミットメント

▶ 環境理念・方針

▶ 事業活動における目標と実績

▶ 事業活動における資源・エネルギーの流れ

▶ 環境パフォーマンスデータ／活動状況

社会への取り組み



▶ お客様視点のものづくりの追求

▶ 働きやすい職場づくり

▶ 社会とのコミュニケーション

トップコミットメント

日頃格別なる御引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

熊本地震によりお亡くなりになられた方々へお悔やみを申し上げますとともに、被災した皆さまにお見舞い申し上げます。

当社の経営基本方針は、多くのお客様を始めとして広く社会全体に奉仕、貢献すること。そして、全社一丸となって取り組む真摯な行動が社会全体から存在理由を見出され、「朝日ラバーに頼めば安心して任せられる」という信頼感、そして「朝日ラバーに頼めば何とかしてくれる」という期待感に繋がるものと考えております。当社が展開する事業領域は自動車事業、医療事業と新たに挑戦しているライフサイエンス事業です。どの事業も将来を支える重要な柱と位置づけております。今後も揺れ動く社会情勢の中で「歩むべき方向性」を見極める感度を高めながら、それぞれの社会活動を通じて当社の魅力を継続的に磨き続けることを努力してまいります。

第47期は「お客様の御役に立つ腕前に集中して更なる発展への道を創造する」を経営方針に掲げております。「お客様のための行動」が出来る製品・サービスとは何であるか、今の基準では良い物であっても、将来に「夢や希望や感動を与える」ことができるものなのか、現場密着で答えを導き出して行動へと移すことにあります。その答えは一足飛びに高まるものではありません。あるべき姿は前を向いて走り続ける中で答えとして見つかるものです。私達はお客様に感動を与えるプロフェッショナルであり続けたい。当社は全社員がその意思を有しながら継続してやり抜こうとする人材の集まりです。自らの成長につながる新しい価値を求め続けて着実に前進するための相互啓発を実現し、一段高いものづくりを創造しながら高品質で環境にやさしい製品が提供できるよう邁進してまいります。

今後も「日々新たな」製品や価値を「楽しんで」創造していける環境を整え、独自製品・開発製品を社会にお届けできるよう全社一丸となって真摯に努力し続けてまいりますので、より一層の御支援のほどよろしくお願いたします。

渡邊 陽一郎

環境理念

我々は環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、【環境にやさしいものづくり】をスローガンとして、地球環境の保全と社会への貢献を目指して活動する。

環境方針

株式会社朝日ラバーは、工業用・医療用・スポーツ用ゴム・プラスチック製品等の設計・製造販売企業であることを踏まえ、関係会社である株式会社朝日 FR 研究所とともに、以下の方針に基づき継続的改善を実施する。

- 1 環境関連の法規制、条例ならびに約束した諸規制を遵守するとともに、本稿において定める全社的環境方針ののっとり、自主基準、業務手順を整備し、環境マネジメントの継続的改善に努める。
- 2 有機溶剤等の化学物質による環境汚染の防止を図り的確な管理に努める。
- 3 地球温暖化防止のために、電力・石油燃料の節減を推進する。
特に製造設備・空調・照明用エネルギーの削減に努める。
- 4 資源の有効活用のため、水の使用量の削減、排出物の削減と再資源化を推進する。
特にゴム屑の廃棄量削減と紙・梱包資材の削減及び再資源化に努める。
- 5 環境問題の改善に有益な新技術、新製品を提供するため、開発・設計段階からの製品アセスメントを推進する。
- 6 この環境方針達成のため、株式会社朝日ラバー及び株式会社朝日 FR 研究所の部門毎に環境目的・目標を設定し、全部門、全従業員をあげて環境マネジメントを推進する。また、環境目的・目標を定期的に見直し、必要に応じて改訂を行なう。
- 7 環境方針は、小冊子にて全従業員に配布する。また外部に対しても開示する。

事業活動における目標と実績

■2015年度（第46期）

方針		目標	実績
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を遵守する	・水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、P R T R 法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法などの遵守	工場排水や地下水の月次自主監視、廃棄物処理場の現地確認、消防、電気保安、浄化槽他の法定設備点検、各種届出等を行い、法令遵守に取り組みました。
	事業活動に適用される有害物質規制を遵守する	・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令の遵守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応	改正RoHS指令の検討対象物質でゴムの添加剤に使用されるフタル酸エステル類（DEHP）と得意先要求のPVCについて代替配合の切替え活動を継続しました。
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する	完成製品の歩留り向上活動の継続に加え、投入材料の削減活動により、前年度比1.7%減少しました。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算エネルギー使用量を前年度比1%削減する	日常の節電活動やLED照明化、老朽エアコン更新他、節電投資を進めましたが、前年比0.1%の増加となりました。

■2016年度（第47期）

方針		目標
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を遵守する	・水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、P R T R 法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法等の遵守
	事業活動に適用される有害物質規制を遵守する	・RoHS、ELV、REACH等の規制、指令の遵守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算エネルギー使用量を前年度比4%削減する。

事業活動における資源・エネルギーの流れ



省エネルギー

■ 電力使用量

第二福島工場にデマンドコントロールシステムを導入、夏季の空調電力抑制の実施、設備を冷却するための冷却水を貯める冷水タンク設置し、水冷却用ポンプの運転回数を減少させる、夜間も生産するフロアの蛍光灯をLED照明へ変更するなどの改善を行いました。福島工場では継続して老朽化した大型エアコンの更新を行い、電力消費削減策を実施しました。また、省エネ改善提案のキャンペーンを行い、広く社員からの省エネアイデアを募集しました。

白河工場では、開発製品の立ち上げの遅れによるクリーンルームの準備運転の継続や全社的な受注の減少という環境上の増減要因も発生しました。

これらの活動や環境変化の結果、社内の売上額が前年度比5.5%減少し、電力使用量は5.3%の減少になりました。



第二福島工場にLED照明を導入

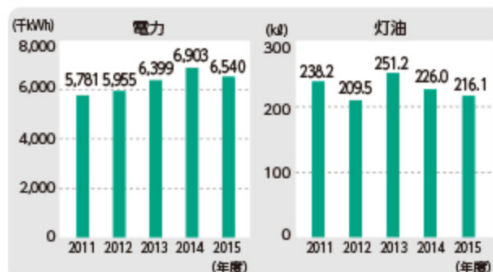
■ 灯油消費量

2015年度も継続して医療用製品の品質改善に取り組み、品質不良による再生産を減少させることができました。それに伴い、生産に使用する温水の熱源となる灯油が削減されました。この改善の効果などにより、全体として灯油使用量は前年度比4.4%減少しました。



冷却ポンプの省エネ効果を狙う冷水タンク

■ エネルギー使用量の推移



水使用量

医療用製品の再生産回数の低減により、灯油同様、水の使用量も減少しました。また、週単位で水使用量のチェックを行い、消費量の異常から漏水の早期発見、処置を行う活動を継続するとともに洗浄工程での流水量の調整による節水活動も実施しました。この結果、水の使用量は前年度比10.3%減少しました。



医療用の新製品用設備

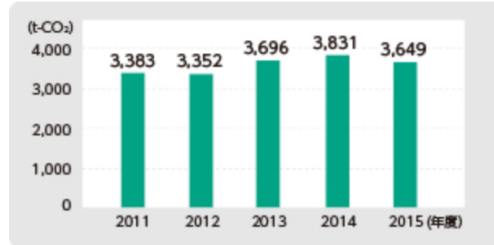
■ 水使用量の推移



CO₂排出量の低減

2015年度は前年度に引き続き、医療用製品の再生産口改善により、灯油使用量が前年度比4.4%減少しました。新たに第二福島工場へ導入したデマンド監視装置、ロール冷却用冷水タンク、24時間稼働の作業室を中心としたLED照明への切替え、福島工場の老朽化エアコン更新などの省エネ設備の導入の他、日常の省エネ活動を継続しました。これらの活動とは別に開発製品の立ち上げの遅れによるクリーンルームの準備運転の継続や全社的な受注の減少という環境上の増減要因も発生しました。これらを総合し、CO₂の排出量は電力と灯油を合わせた全体で前年比4.8%の減少となりました。

■CO₂排出量の推移



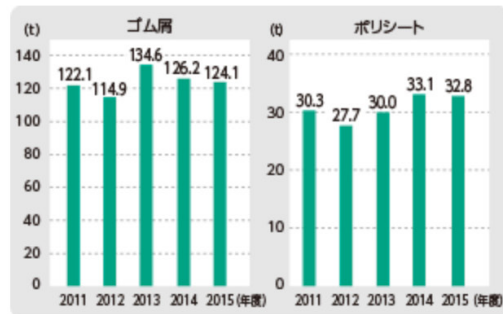
廃棄物の削減

2015年度も継続して廃棄物の中では最多のゴム系廃棄物の削減を狙い、投入材料削減活動を継続し、白河工場、福島工場でゴム系廃棄物が減少しました。また、生産量の減少に伴い、原料容器であるダンボールや紙類、ポリシート、木製パレットなどが減少しました。これらの結果、廃棄物全体で前年度比6.2%の減少となりました。

■廃棄物総排出量と前年度比の推移

年度	廃棄物(t)	前年度比(%)
2011	264.2	97.0
2012	252.5	95.6
2013	292.7	115.9
2014	310.0	105.9
2015	290.7	93.8

■排出量の推移



■廃棄物の種類

種類	排出量(t)
ゴム系	124.1
シリコンゴム	29.6
ポリシート、プラスチック	52.5
汚泥	24.1
廃紙類	19.7
可燃ごみ	17.7
木製パレット	8.5
その他	14.5
合計	290.7

リサイクルの推進

これまでにポリシートやフィルムなどのプラスチック類はRPFとしてリサイクルされていましたが、硬質を含む混合プラスチックは、焼却処理後、焼却灰を最終処分場に埋立処理していました。2015年度は新たにこれらの焼却灰をセメント原料として使用するルートを作ることができました。その結果、リサイクル重量、リサイクル率が増加しました。混合プラスチック類を含めたリサイクル率は6.5%向上して88.9%となり、90%まで1.1%に近づきました。

リサイクルの定義…有償処理であっても再利用されている場合はリサイクルとみなし集計。

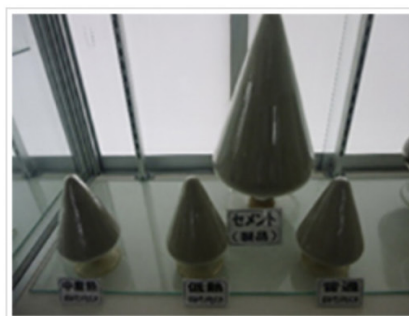
ポリシート、汚泥、排紙、木製パレットを加える。

通常生産工程からの排出でない鉄や廃オイルなど突発発生に伴うものを除く。

上記は2011年版から変更済み。

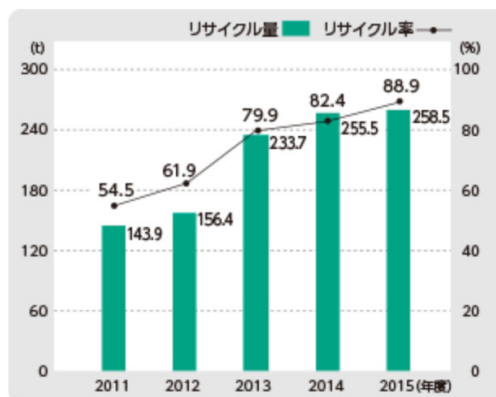


道路の路盤材用碎石にリサイクルされた脱水汚泥



硬質プラスチックの焼却灰を利用したセメント

■ リサイクル量およびリサイクル率の推移



化学物質の管理

RoHS6物質が工程内で使用されないように原材料や混練加工済み材料を受入段階で検査するとともに、出荷する製品の確認を行うことで化学物質に対する品質保証を継続しています。

ゴムの添加剤に使用しているフタル酸エステル類（DEHP、BBP、DBP）が検討対象物質になったことから、これまでPVCとともに進めてきた配合薬品の代替活動が一層重要なものになりました。

工程内で使用しているPRTR法の対象となる化学物質には数種類の有機溶剤があります。

環境や安全に対するルールに従って使用するとともにPRTR法で指定される移動量の届出を行っています。

トリクロロエチレン浄化活動

当社の主力商品だったASA COLOR LAMPCAP中に含まれる不純物を取り除くため、トリクロロエチレンを使用してきました。このトリクロロエチレンが地下に浸透していることがわかり、1996年から土壤ガス吸引浄化装置による土壤浄化、2004年から地下水揚水浄化装置による浄化を行ってきました。

2015年度も2012年度から開始した汚染物質を微生物に分解させ、土壤を浄化する方法についての条件確認調査を行いました。分解菌が多いほど汚染物質の分解が促進されるため、ポイントは、分解菌が増加する土壤環境を作れるかということになります。今年度も分解菌を活性化させる薬剤を土壤に投入し、土壤環境の指標である酸化還元電位や地下水中のトリクロロエチレンとその分解生成物の量的変化の確認を行いました。その結果、2014年度に投入した薬剤により酸化還元電位やトリクロロエチレンの変化が確認されましたが、決定的な結果は得られませんでした。従来から行っている地下水の揚水浄化を継続するとともに次年度も微生物による効果的な分解浄化条件の調査を続けていきます。



土壤浄化条件調査



汚染物質分解効果確認の地下水観測

ゴム製品を通じたお客様視点のものづくりの追求と、 サステイナブルな社会の発展に貢献

熊本地震で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。
また、被災地などにおきまして、救援や復興支援などの活動をされている方々に深く敬意を表します
とともに、皆様の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

お客様の立場に立った品質を大切にしています

(1)朝日ラバーの品質方針

朝日ラバーが注力する品質方針とは、「お客様目線の品質」を大切にすることです。得意先クレーム“ゼロ”や法令遵守に取り組むことは当然ながら、お客様のニーズを的確に把握した製品を開発し、資源と時間の無駄を徹底的に省いた生産活動に取り組んでいます。私たちは常にお客様の視点や立場に立った品質づくりを目指しています。

(2)品質保証と管理システム

重要な取り組みとして、ISO9001やISO14001の改訂を機に2017年までに事業プロセスの見直しを行い、事業プロセスと最新の国際基準を統合・一本化させ、統合マネジメントシステムを確立させていただきます。品質管理の主な取り組みは工程品質保証です。次工程に不良を流さないようにするため、品質実績を徹底解析し、原因を究明し、個々に対策を計画していきます。品質会議で、月に一度、横断的な課題や対策の進捗状況などのレビューも実施しています。また、不良発生の予防施策として、製品の重要機能・品質を特定し、設計審査の実施に取り組んでいます。生産、購買、営業の視点もインプットし、設計段階で生かしています。

(3)品質は朝日ラバーの「土台」

土台を構成するのは人材に他なりません。問題の発見力と解決能力を磨くべく、さらなる管理技術と、ゴムの能力を最大限に発揮するための固有技術を身に付け、機械ではできない品質をお客様にご提供し続けていきます。

環境にやさしいものづくり

関連法や、省エネ法の遵守を行いながら、生産性や生産過程での供給原料の量に対する製品量の比率（歩留り）を高めることで、資源使用量を低減する努力を日々続けています。目標に対して誠実に取り組むことで、事業の成長を通じて環境考慮の経営をしていきたいと思えます。

2015年度は、法規制の遵守、有害物質規制の遵守、廃棄物の削減やエネルギーの削減を方針に環境考慮のものづくりを推進してきました。具体的には水の使用量や、廃棄物の削減ができました。2016年度の目標といたしまして、再生可能エネルギーの導入など、直接的、間接的に、3.11を経験した福島県にある企業としてこれからも環境にやさしいものづくりを目指していきます。



取締役
品質保証部長
高木 和久

働きやすい職場づくり

人材マネジメント

朝日ラバーが目指す人材像

1. 私たちは、一人ひとりが自立心を持って目標に挑戦します。
2. 私たちは、個性を尊重しつつ人間性の向上を育み、仕事を通じて自己実現できる環境づくりを目指します。
3. 私たちは、公平に機会を与え、公正かつ具体的に評価し処遇を決めます。

当社の人事基本戦略として、従業員との対話を大切に、安心・健康でやりがいのある働きやすい職場づくりにつとめます。従業員が公平に評価され、働きがいやモラルの向上につながるよう、資格等級制度、評価制度、給与制度を見直し、目標を必ず達成できる企業体質の構築を目指します。育成では、従業員の保有能力を把握した上でのキャリアアッププランの策定や管理職のスキルアップ制度の導入を進めます。また、自己啓発の促進につとめ、通信教育などは修了を条件に費用はすべて会社負担として自主的な知識の習得を支援しています。

ワークライフバランスの推進

■ 両立支援制度の充実

組織の生産性と活力を高めていくためにも、男女ともに柔軟な働き方と多様なライフスタイルを選択できる諸制度の充実を図っています。特に育児、母性保護、介護に関する制度の見直しに力を入れています。2011年11月には次世代認定マーク「くるみん」を取得し、従業員の子育て支援を積極的に推進している企業を目指しています。制度の整備にとどまらず、活用を促進するために制度の周知徹底、ニーズ調査の実施、施策検討チームによる検討などに取り組んでいます。



■ 主な両立支援制度一覧

出産・育児	
育児休業	最長、子が1歳6ヶ月に達するまでの期間は育児休業の取得が可能
子の看護休暇	子が小学校就学の始期に達するまでの期間、子が1人の場合は1年につき5日間、2人以上の場合は1年につき10日を限度として看護休暇の取得が可能。また、限度日数の範囲内で半日単位での取得も可能
介護	
介護休業	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態ごとに通算93日間の介護休業の取得が可能
介護休暇	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする場合、当該家族が1人の場合は1年につき5日、2人以上の場合は1年につき10日を限度として介護休暇の取得が可能
柔軟な労働時間	
所定時間外労働免除・制限	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、深夜残業の禁止とともに、所定時間外労働の免除が可能
短時間勤務	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、2時間以内の労働時間短縮が可能
ノー残業デー	第2、4水曜日はノー残業デー（間接部門のみ）
半日単位有給休暇付与	1年につき5日分（半日単位で10回分）の半日単位の有給休暇が取得可能

■ 両立支援制度実績(国内事業所および関係会社)

	2013年度	2014年度	2015年度
育児休業取得者数	12	11	10
育児休業取得者復帰率	100%	100%	100%
育児短時間勤務利用者数	10	13	12
子の看護休暇取得者数・総日数	30(111.5日)	27(158日)	37(153日)
介護関連諸制度利用者数・総日数	1(5日)	2(3日)	2(5日)

■ 有休休暇取得者数

	2013年度	2014年度	2015年度
有給休暇 平均取得日数(日)	9.0	10.0	9.4
半日有休 取得者数	165	230	256

■ 新規採用入社3年未満退職率

	2013年度	2014年度	2015年度
新規採用入社3年未満退職率	0.0%	0.0%	3.8%
採用者数	5	5	16
退職者数	0	0	1

職場環境の安全

工場の現場では、休日や夜間作業になると担当者以外の人が近くにいないため、異常に気付かないことが考えられます。2014年度はこのような場面を想定し、担当者が身に付ける転倒検知装置を導入しました。担当者が倒れたまま一定時間が経過するとあらかじめ設定した部屋に異常信号を発信するというものです。これまで事故事例はありませんが、窒素ガスを使用する作業場に設置した酸素濃度低下警報やAEDと同様に、もしもの時の安全のために導入を決めました。事故の発生予防のほか、異常発生時、速やかに対応できる備えについても検討を進めています。



万が一のために導入した転倒検知装置

工場のなかには事故に発展しうるさまざまな危険が存在します。当社では、毎月工場ごとに安全衛生委員会を開催し、安全の基本となる2S（整理・整頓）を中心とした工場内パトロールを継続しています。

また当社では、従業員の声を集め、働く環境を整備する仕組みとして女性の視点による職場環境の課題を話し合う場を設けています。

メンタルヘルスケア

職場に存在するさまざまなストレスへの対処として、メンタルヘルスケアの活動に力を入れています。外部から講師を招いて管理職向けの勉強会を開催し、日常の仕事の管理面で配慮すべき点や相談できる風土づくりを通じて、生き生きと働くことのできる職場づくりを目指しています。また、規程を整備して会社として不公平感のない対応ができるよう制度づくりを進めているほか、「なんでも相談窓口」を設置して上司や同僚には話しにくいことも相談できる体制を整えています。

職場環境の安全

2014年から2016年にかけてストレスチェック、化学物質のリスクアセスメント、受動喫煙防止措置の努力義務化など、労働安全衛生法が改正されます。メンタルヘルスについては、管理職と一般社員別に全社員を対象にした社内研修開催やストレスチェックの実施に向けた社内規程の整備、産業医や外部機関との実施準備を進めました。

化学物質のリスクアセスメントについては対象物質の絞り込み、評価方法の決定、評価を行い、担当者教育実施の準備を行っています。受動喫煙対策としては、喫煙室内へ規定風速で空気を吸い込めるように設備能力を増強しました。

また、緊急時の避難・消火訓練の他、インターネットを使った安否情報連絡訓練、AEDの使用訓練も行いました。福島工場近郊の企業様が開催する設備への巻き込まれや挟まれ事故の危険を体験できる安全道場に多くの社員を参加させ、安全意識の向上を図りました。



AEDの使用訓練



喫煙室内に吸い込まれる空気の風速測定



社内開催のメンタルヘルス研修会

従業員の状況

■従業員数（2016年3月31日現在）（単位：名）

	正社員	準社員	嘱託	パート	合計
本社	34 (6)	—	3(0)	—	37 (6)
大阪営業所	5 (1)	—	—	—	5 (1)
福島工場	65 (17)	8(6)	—	—	73 (23)
第二福島工場	60 (21)	6(3)	—	—	66 (24)
白河工場	107(28)	8(3)	—	1(1)	116(32)
(株)朝日ラバー合計	271(73)	22(12)	3(0)	1(1)	297(86)
朝日FR研究所	8 (2)	—	—	—	8 (2)
ARI INTERNATIONAL Corp.	2 (0)	—	—	1(1)	3 (1)
東莞朝日精密機器製品有限公司	173(111)	—	—	—	173(111)
朝日科技(上海)有限公司	2 (1)	—	—	—	2 (1)
総合計	456(187)	22 (12)	3(0)	2(2)	483(201)

※ () 内は女性人数

■年代別従業員数（2016年3月31日現在）（単位：名）

	男性	女性
20代以下	58	28
30代	60	25
40代	63	22
50代	19	13
60代以上	9	0

■平均年齢・平均勤続年数（2016年3月31日現在）

	本社	大阪営業所	福島工場	第二福島工場	白河工場	(株)朝日ラバー合計
平均年齢(歳)	45.1(37.8)	41.4(42.0)	40.6(40.6)	33.2(34.8)	35.4(35.3)	37.6(36.9)
平均勤続年数(年)	8.3(15.9)	12.3 (2.0)	13.4(14.0)	10.0(11.3)	11.3 (11.1)	12.1(11.6)

※ () 内は女性

社会とのコミュニケーション

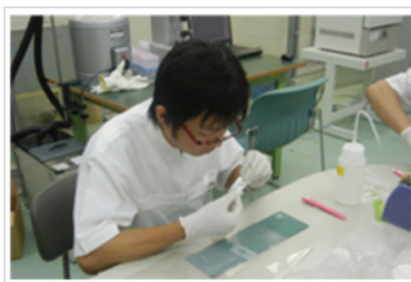
産業現場実習生の受け入れ

2015年6月、白河実業高校2年生の産業現場実習を各工場2名ずつ受け入れました。参加した学生たちは、学校とは違う実際の企業での実習に緊張しつつも、先輩社員の指導を熱心に聴き丁寧に作業を体験しました。



インターンシップ生が白河工場で研修を実施

2016年2月、日本大学工学部から学生1名をインターンシップ生として受け入れました。当社では毎年企業体験を通じて就業意識の向上を目的としてインターンシップ生を受け入れています。



小田川小学校の皆様工場見学

2015年11月、白河工場が立地している地区の小田川小学校から5年生14名が社会科授業の一環として白河工場を見学しました。当社の製品紹介だけでなく実際にどのようにしてゴム製品が作られるのかなど、クイズや工作体験を通して紹介し、ゴムを身近に感じてもらうためのゴム細工コーナーでは、初めて触れるゴムの感触に歓喜し、カラフルな材料で思い思いの作品を作りあげました。作品は製造工程を見学している間に加硫が行われ、でき上がった完成品を見学の記念に持ち帰りました。



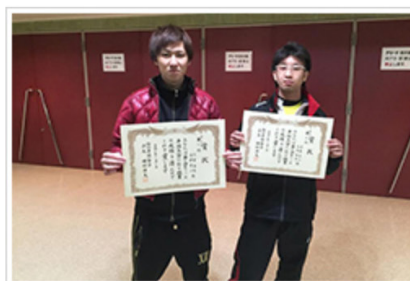
朝日ラバー杯中学生卓球大会を開催

2015年7月、第21回朝日ラバー杯中学生卓球大会を開催しました。今大会には福島県の県南地域から約250名の選手が参加し、日頃の練習の成果を発揮して熱戦を繰り広げました。



朝日ラバー杯卓球大会を開催

2015年11月、第14回朝日ラバー杯卓球大会を開催し、中学生から一般まで男女合わせて約500名が参加し、白熱した試合が繰り広げられました。当社社員も出場し男子ダブルスで3位に入賞しました。



しらかわ地域企業展示交流会

2015年6月、白河市中央体育会を会場に「第5回福島県しらかわ地域企業展示交流会」が開催されました。期間中は、県南地域企業、産学官連携団体など42社のブースが並び、自社製品のPRや技術交流、商談のほか、未来の技術者育成・人財発掘のため同時開催された高校生向け見学会でも約350名を超える学生が会場を訪れました。会場の模様はTVやラジオでも報道され、当社の出展を聞きつけ遠くは茨城から来場された方など企業PRとしても盛況な機会となりました。



「Decoraしらかわ」 出展

2015年10月、今年で2回目となる「Decoraしらかわ」産業フェスティバルに、当社も今年初出展をしました。こちらは、白河市合併10周年記念事業として昨年より白河市で開催されている祭典で、当社も地元根差した企業として地域貢献だけでなく当社の活動、製品について広く来場された方々へPRを行なう機会となりました。



日本赤十字社福島県支部より感謝状をいただきました

2015年10月、日本赤十字社福島県支部において、長年継続的に献血に協力している団体および企業を対象に、献血推進活動に対する功章表彰・感謝状贈呈式が行われました。今回は、白河工場の長年にわたる献血推進活動の積極的な取り組みに対して、授賞を受け、当日、市川明工場長が出席し、感謝状および記念品をいただきました。



JR 東北本線泉崎駅の清掃

福島工場、第二福島工場の最寄駅であるJR東北本線泉崎駅で、毎週火曜日の就業時間前に4~5名の当番制で清掃活動を行っています。活動を開始して2016年で21年目になります。

